

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査 結果概要

女川町立女川小学校

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準を維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施月日 平成31年4月18日（木）

3 対象学年 女川小学校第6学年児童31名 当日実施児童 30名 後日実施児童 1名

4 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査：国語，算数，理科
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5 本校と県・全国との比較

	国語	算数
宮城県	宮城県平均を10ポイント以上上回っている。▲	宮城県平均を8ポイント上回っている。▲
全国	全国平均を10ポイント近く上回っている。▲	全国平均を6ポイント程度上回っている。▲

○国語，算数共に宮城県平均及び全国平均を上回った。

6 学力調査結果から

(1) 国語の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・記述式の問題の正答率が宮城県，全国と比べ，大きく上回っている。登場人物や筆者の心情などをノートに書く時間を十分設けてきたことや家庭学習で条件作文（文字数や題名を定めた作文）に継続して取り組んできたことが実を結んでいる。
- ・学年別漢字配当に示されている漢字を文の中で正しく使うことができている。朝読書などで本に触れる機会を増やしてきたことで，漢字を読んだり書いたりする力が身に付いてきたものと思われる。
- ・無解答率が宮城県，全国と比べて低い。「業前マラソン」などの体力づくりを通して，学習面でも最後まで諦めずに取り組もうとする精神面の強さが身に付いてきていると考えられる。

(課題)

- ・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では，宮城県，全国平均と比べ，ことわざの意味を理解できていない児童が多い。
- ・「書くこと」領域では，すべての問題で宮城県，全国平均を上回っている。しかし，問題によっては，正答率が30%程度の問題もある。目的や意図に応じて，自分の考えの理由を明確に

して、まとめて書く力に課題が見られる。

②指導改善のポイント

- ・「話すこと・聞くこと」では、当該領域の授業を充実させることはもちろんのこと、普段の授業で話の要点を考えながら注意深く聞かせることを継続していく。
- ・「書くこと」では、各学習の中で自分の考えをノートにまとめて書いたり、学習感想を書いたりする時間を設ける。
- ・「読むこと」では、文章のキーワードに着目しながら読ませたり、自分の考えを明確にしながらか読ませたりする。
- ・図書室へ来室する時間を設けるなど読書の習慣化に向けた取組を一層推進する。
- ・学年に応じて毎日漢字練習を行うとともに、漢字の小テストの回数を増やし、児童が新出漢字を少しずつ学べるよう配慮する。また、文章を書く時は、できるだけ漢字で書くようにし、漢字を他教科や日常生活で活用することで定着を図る。

(2) 算数の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・全国の平均正答率を上回ることができた。授業改善や学力向上対策の取組が実を結んでいると思われる。
- ・全ての問題において、無回答率が県・全国平均よりも低く、国語同様、あきらめずに課題に向かう姿勢が身に付いている。
- ・「数と計算」領域の平均正答率は、全国よりも10ポイント以上上回っており、四則計算の基礎・基本が身に付いていると言える。
- ・「量と測定」と「数量関係」の領域の平均正答率は、全国よりも8ポイント程度上回っており、両領域の知識・理解の観点での理解度が高いと言える。

(課題)

- ・「図形」領域では、合同な図形の性質の設問に対する正答率が低く理解が不十分であったと言える。
- ・記述式の平均正答率は全国平均より3ポイント程度上回っているが、児童数の50%程度しか正解できなかった。

②指導改善のポイント

- ・四則計算が確実にできることが正答率を上げる大きな要因である。四則計算を確実に身に付けられるよう、習熟タイムや家庭学習、長期休業中の補習で継続的に指導する必要がある。
- ・「量と測定」では、図や数直線を使って考えたり、説明したりする学習活動をさらに取り入れる必要がある。
- ・「図形」では、図形の性質や公式ができるわけについて児童が自分の言葉でまとめることにより、知識の確実な定着を図る。
- ・「数量関係」では、日常の場面を問題に取り入れ、問題を身近なものとして考えられるようにするとともに、グラフが正しく読み取れるよう、他教科とも関連させながら繰り返し指導する。
- ・記述式の問題に対応できるようにするために、課題に対しての自分の考えをノートに書かせた

り、授業の終わりに振り返りをさせたりするなど児童が自分の考えをまとめ、文章で表現する時間を確保する必要がある。

7 児童質問紙から（○成果、▲課題）

（1）生活習慣・学習習慣について

- 朝食を毎朝食べている児童の割合が95%である。
- 起床について、規則正しい生活習慣が身に付いている児童の割合が100%である。
- ▲宮城県、全国平均と比べて、同じくらいの時刻に寝ている児童の割合が少ない。
- ▲家で自分で計画を立てて勉強をする児童の割合が宮城県、全国と比べて低い。

（2）規範意識・自己有用感について

- いじめに対して、いけないことと思っている児童がほとんどである。
- 宮城県、全国と比べ、女川小学校の児童は先生が良いところを認めてくれていると感じている児童の割合が高い。
- ▲宮城県、全国と比べても自分には良いところがあると感じていない児童の割合が高い。
- ▲将来の夢や目標を持っていなかったり、人の役に立つ人間になりたいと感じていたりする児童の割合が宮城県、全国と比べて低い。

（3）学習に対する興味・関心等について

- 国語・算数の学習について、意欲的に取り組もうとする児童が県・全国と比較すると高い。
- 国語・算数の学習に対する必要感が高い。また、授業の内容も分かりやすいと感じている児童も県・全国と比べて高い。
- ▲国語・算数の学習が将来、社会に出たときに役に立つと感じている児童の割合が県・全国と比べて低い。
- ▲国語・算数の学習で学習したことを日常生活で活用しようとする児童の割合が県・全国と比べて低い。

8 今後の取組

（1）「基礎的・基本的な知識・技能」の確実な定着を図る授業等の改善

- ① 児童にとって「わかる・できる・楽しい」授業づくり
 - ・宮城県教育委員会から示されている「5つの提言」を取り入れることにより、「自己有用感の形成」や「教科指導の充実」、「家庭学習の習慣化」を図る。
 - ・宮城県教育委員会から示されている「算数・数学ステップアップ5」を取り入れ、より効果的な学習を行うために、意欲を持てる課題の提示方法や学びが深まる自力解決、集団解決の方法について校内で研究、実践していく。
 - ・デジタル教科書や実物投影機などのICT機器を活用し、資料を拡大して提示することで視覚的に分かりやすい授業を行う。また、タブレットを活用し、児童個々の習熟の時間を効果的に展開する。
- ② 個に応じた習熟度別学習の充実
 - ・放課後に「今日の一問」を設定し、支援を必要とする児童の学習支援を行い、学習内容を確実に習得させる。
 - ・全校で月に2回程度、当該学年の学習内容を確実に習熟させたり、活用したりする「習熟タイム」を設ける。

③ 「女川スタンダード」をもとにした学習規律の徹底

- ・女川スタンダード（女川小学校で一貫した教育を行っていくための学習や生活に関する約束事）をもとに、継続的な指導を通して、基本的な学習習慣の定着を図る。

④ 漢字検定、算数検定の積極的な活用

- ・漢字検定や算数検定を、児童の学力を定着させる取組に位置付け、積極的に活用していく。

(2) 「活用する力」の育成を図る授業の充実

① 「書く活動」の充実

- ・児童の思考力を高めるため、どの教科においても自分の考えを書く活動を取り入れる。また、自分の考えを表現する力の素地を養うため、日記・作文を継続的に書かせる。さらに、読書を推奨し、語彙力、表現力を育てていく。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した単元構成の工夫

- ・単元を構成する際に、単元全体を通して、「主体的・対話的で深い学び」を達成できるように、指導計画を工夫する。

(3) 家庭学習習慣の定着

① 基本的な生活習慣の確立と学習時間の確保

- ・生活習慣の改善を図るために「うみねこルール」（基本的な生活習慣を身に付けさせるため、うみねこ児童会で定めた約束事）を全校児童で意識させる。
- ・「はやね はやおき 朝ごはん」を合い言葉として、家庭への啓発を継続し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。

② 授業と連動させた課題の工夫

- ・学習内容の定着を図るために、家庭学習の課題を児童の実態に応じた内容を工夫する。

(4) 女川中学校、女川向学館、地域との連携強化

① 中学校との連携

- ・小中学校の教員が各校の授業参観を通して、「指導（授業）内容」「（学年・年齢・教科の特性に応じた）指導の工夫」等について学び合う。

② 女川向学館との連携

- ・女川向学館と連携し、担当学年の担任同士で児童の実態を情報交換し、指導に生かす。

③ 地域の人財（じんざい）活用

- ・生涯学習課で作成した「女川小学校版人材バンク」や「出前授業」を活用することにより、地域の教育力を生かす。